

パラダイムシフト

福岡産業保健総合支援センター

産業保健相談員 久野亜希子

(ひさの社会保険労務士事務所 所長 特定社会保険労務士)

事の重大さを考えれば、軽々に怪我の功名などという言葉を使っていいものではないのかもしれませんが、今年に入ってからの職場環境の変化は、変化が鈍い日本社会では考えられない激しさを見せています。今まで多くの人が無駄ではないかと思っただけで慣習で仕方なく続けていたものの削ぎ落としや、観念的に先行していた諸問題の解決、例えば皆さんに近い問題ですと、治療と仕事の両立支援のための時差出勤、在宅勤務(テレワーク)といった支援策が当然のように登場するようになったことなど、言うは易く行うは難しかった事柄が一気に進んだ面もあったと言えると思います。

しかし、当然ながら大きな物事の転換は、今まで考えもしなかった新たな問題を生み出し始めてもいます。例えば希望を抱えて入社した会社がテレワークを推進せざるを得なくなった結果、日々の教育が疎かになり、管理職等のフォローも届きにくく孤独感を増し、責任感の強い真面目な人ほど思い悩み、心を病むようなことにつながったり、あるいは、その逆の自堕落な性格の従業員が管理職等の目がなくなることにより、意欲的に働かなくなったり、勉強不足で雑な仕事しかしなくなったりと、今まで解決法を探る必要のなかった問題を解決するすべを考えることが必要になり始めています。前者であれば、フォローが必要な新入社員に対しては、可能な限り出社できるような環境を整えたりといった、メンタルヘルス対策も含めた教育体制の手直しが必要となるでしょう。後者であれば、短期的な目標を日々設定し仕事の達成感を感じられる仕組みを作ったり、何らかの成果給の導入など年功序列型賃金制度の見直しも必要となってくるでしょう。生産性が低くても同じ評価となる人事制度では、企業の存続すら危ぶまれる深刻な問題にもつながるからです。いずれにせよ、専門職である私たちが問題を早く把握し対策に結びつけることで、企業や従業員にとって大きな助けになるはずです。

新型コロナウイルスの影響でドラスティックに変わっていく環境の中、なくなっていくものを惜しむよりも、今まで実現が難しかったものなどを積極的に取り入れられる好機と捉え、まずは上ではなくて前を向いて、一歩ずつ進んでいきましょう。